

## ABOUT THE HISTORY OF THE NYOIRIN-JI

The Nyoirin-ji at Mt. Yosino in Yamato was established during the Enki(901~923) by Saint Nitizo Douken who is the brother of Dr.Miyoshi Yoshiyuki. Saint Nitizo Douken advised the Emperor Daigo to become a believer in Buddhism.

When the Emperor Go-Daigo transferred the capital to Yoshino, he worshiped at the Nyoirin-ji. The Emperor Go-Daigo visited the Nyoirin-ji with Kusunoki Masatara and his 143 retainers in the second year of Syohei.

The Nyoirin-ji was on the decline after the Seiyu. Saint Bunyo Tetsugyu rebuilt the temple in the third year of Keian. He converted the Nyoirin-ji from Singon-Syu to Jodo-Syu and spreaded Buddhism. He protected the Emperor's Mausoleum.

## THE EMPEROR GO-DAIGO AND KUSUNOKI MASATARA

The Emperor Go-Daigo defeated the arbitrary Hojo shogunate and carried out the Kenmu Restoration in the third year of Genko. But Ashikaga Takauji resisted the Emperor. The Emperor escaped from Kyoto and went to Mt Yoshino in Nara in the first year of Engen. He transferred the capital to Yoshino and worshiped at the Nyoirin-ji.

Though the Emperor had been eager for defeating Ashikaga Takauji and coming back to Kyoto, he was taken ill and passed away in Yoshino after all. His last word was as follows "I am very sorry I can not come to Kyoto any more. Bury me toward Kyoto at least, when I am dead. He was buried in the mountain behind. And, it was called Touoryo.

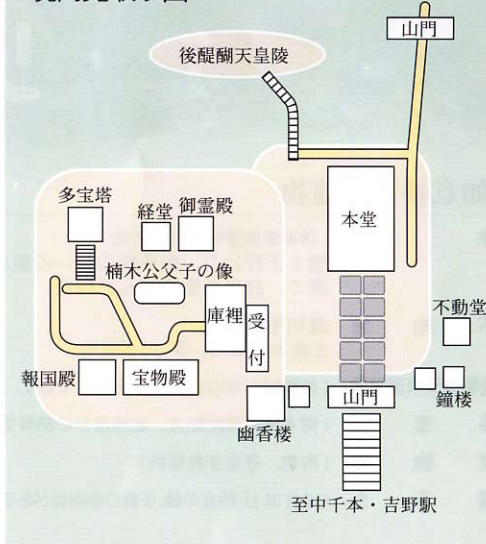
The Emperor Go-Murakami succeeded to the in Yoshino.

In 1346, the second year of Shohyo the large army of Ashikaga began to charge at Yoshino. Kusunoki Masatara and his 143 retainers bided farewell to the Emperor hurriedly. After that, they visited the Mausoleum and worshipped the Nyoirin-do. There they cut their hair a little and offered them to the Buddha, and wrote down their names on the necrology.

Lastly, on the door of the Nyoirin-do, Masatara wrote down a farewell poem with the arrowhead to express his desperate feeling "Kaeraji to kanete omoeba azusayumi nakikazuniiru nawozo todomuru" (I think I can not return alive this time. So I wrote down my name on the necrology and I am going.)

Thus he went to Sijounawate in Osaka, and fought heroically and died with his brother Masatoki. The existing Nyoirin-do is rebuildled in the third year of Keian (the Edo Era). But the door still remains in the treasury

境内見取り図



## 年間行事

- ・ 1月1日…修正会
- ・ 3月22日…春の彼岸会
- ・ 7月15日…施餓鬼法要
- ・ 9月22日…秋の彼岸会
- ・ 11月28日…難切不動尊大祭
- ・ 12月31日…除夜の鐘

近畿 36 不動尊 30 番霊場  
役行者 霊跡札所  
別時念仏道場大和 25 霊場

如意輪寺

〒639-3115 奈良県吉野郡吉野町吉野山 1024

TEL 0746-32-3008

http://www.nyoirinji.com

如意輪寺

検索

●写真撮影 森本和義

吉野山  
如意輪寺

南朝勅願寺

YOSINOYAMA NYOIRIN-JI



## ●如意輪寺の沿革

大和国吉野山如意輪寺は、とうのうざんちんか いん塔尾山椿花院と言う。中千本の桜樹のあいだ、緑の松柏峰に連なる山腹にある当山を、陽春四月桜花咲き乱れ香雲霰舞たる中に、あるいは、秋の紅葉錦布くとき、あるいはまた、枯れ木をおおう白雪の中に望見すると、大小の伽藍がらんを配して連なり、けだし、天下の絶景これに勝るものはない。

現在、如意輪堂(本堂)・多宝塔・御霊殿・幽香楼・報国殿・宝蔵・鐘楼・茶所・庫裡等の建造物がある。

そもそも当山は、延喜年間(西紀 901-923)文章博士三好善行の弟で、醍醐天皇の御帰依を被った日藏道賢上人の草創にかかり、後醍醐天皇吉野に行宮を定め給うや勅願所となった。正平二年(1346)楠木正行公一族郎党143人と共に参詣の事があった。正中いらい寺運衰退したが、のち、慶安三年(1650)文誉鉄牛上人きたり、本堂を再興し、真言宗を改めて浄土宗とし、念仏を弘通し、ひたすら、御陵の守護に任じた。

### ■後醍醐天皇と楠木正行

元弘三年(西暦 1333)専横の北條幕府を倒し、建武中興をなしとげた後醍醐天皇は足利氏との争いのため京都をのかれ、延元元年吉野へ行幸、以来吉野行宮に過ごされた。当山は叡信特にあつく吉野朝の勅願所となった。延元四年(1339)天皇は病床につかれ「身はたとへ南山の苔に埋むるとも魂魄は常に北關の天を望まん」と都をあこがれつつ、ついに崩御された。天皇の御遺骸をそのまま当時の裏山に葬られたのが塔尾陵である。次帝後村上天皇の正平2年12月27日(1347)楠木正行公の一族郎党143人が四條畷(大阪府)の決戦(足利武将高師直との戦)に向うに当り、吉野の皇居に天皇と今生の別れを告げ、先帝の御陵に参拝の後、如意輪堂に詣で、髻を切って佛前に奉納、過去帳に姓名を残し、最後に、正行公は鎌をもって御堂の扉に

かゑらじと かねておもえば梓ろ

なき数に入る 名をぞとむる

(今度の戦いは生きてかえれぬ身であるが故に亡き人の仲間入りをする名前を残して出発しますとの意)と辞世の歌を残して四條畷に向ったが衆寡敵せず弟正時と共に最期をとげた。時に年23歳である。現在の如意輪堂は慶安三年(江戸時代)の再建で当時の扉は現在宝物殿に保存されている。



## ●如意輪寺の建物

- 本堂 (御本尊如意輪観世音菩薩) 楠木正行公が、四條畷の戦いの前に鎌で、辞世の歌を刻んだ御堂
- 不動堂 難切不動尊 近畿36不動尊 第30番霊場
- 後醍醐天皇御霊殿 (後醍醐天皇の御自作の木造を安置)
- 多宝塔 (御本尊阿弥陀如来、総檜造りの納骨堂)
- 宝物殿 (南朝、寺宝多数収納)
- 鐘ろう (12月31日 除夜の鐘、多数の参詣者がある)

## ●句碑と塚

- 句碑
  - ・芭蕉の句碑 御廟年経て忍は何をしのぶ草
  - ・尾山篤次郎歌碑 延元のみかどの みあしふましけむ 山柿 赤くつぶれたる このみち
- 塚
  - ・正行公の髻塚 正行公及び143名が出陣に先立ち如意輪堂に奉納した髻を埋めた処。
  - ・井内侍の至情塚 後村上天皇より正行公の奥方にと御言葉があった辨内侍だが楠木正行公討ち死にの後尼僧となりその黒髪を埋めた処。
  - ・小楠公髻塚の碑 髻塚に対して慶應元年津田正臣の立案で森田節齋が決死の覚悟で小楠公をたたえた名文である。
  - ・楠公父子の石像 太平記で、有名な楠木公父子(正成、正行)の桜井の別れの石像

## ●宝物殿

### ■正行公辞世之扉 /Tobira

正行公が四條畷の決戦へ出発に当り鎌を以って辞世の歌を記された如意輪堂の扉である。

### ■金剛蔵王権現木像 /Kongou Zaou Gongen wooden Statue 鎌倉時代 源慶作(運慶の高弟)(重文)

重文像は桜の一本造で蔵王権現の木像としては日本一と称されている。蔵王権現は元来悪魔降伏の佛で右手右足を挙げ天地の悪魔を鎮めんとする形相は眼光炯々として辺を圧する感に打たれる。しかしその恐ろしい御顔のなかにも自ら漂う慈悲心の現れを見逃すことが出来ない。全身には精巧な切金模様が入り御眼は水晶、後ろに燃える火焰の勢も亦見るべきもので権現の像としては他に類がない。

■吉野大曼陀羅 /Yoshino Dai Mandara 桃山時代(県文化財) 役小角(右上)が約千三百年昔大峰山に於て金剛蔵王権現を感得された様子を、下方には吉野山の神社、仏閣を画く。当時の吉野山の社寺風俗が偲ばれる貴重な資料。

■吉野三絶 /Yoshino Sanzetu 竹外、鉄兜、星巖とも幕末の人、三詩は特に「吉野三絶」とよばれ有名である。

■後醍醐天皇御祈の図 /Fugure of Prayer Emperor Go-Daigo 植中直齋筆 前記の金剛蔵王権現に天下泰平を御祈願される様子である。

■楠木正行公短刀 /Tantou of Kusunoki Masatura 銘 来国吉(研・内山一夫殿) 桜井の駅で父正成より拝領したもの。

■天井 /Ceiling 日本最大如意輪観世御菩薩画像(ねおがみの観音) 御本尊如意輪観世音をモデルに画いた日本の最大の油絵像である。 馬堀喜孝筆 他約50点

